

# インプラント治療のトラブル症例から 読み取れる治療の現状

演題：日本歯科大学名誉教授 高森 等 先生

日時：平成29年12月2日(土)

場所：(株)松風東京営業所



岡田 淳 (栃木県)



平成29年12月2日、松風東京営業所にて平成29年度第3回特別研修会が、日本歯科大学名誉教授 高森 等先生をお招きして開催されました。当日は、忘年会の開催も行われることから、年の瀬にもかかわらず、いつも以上に多くの先生方の参加があり、大変賑わいのある研修会となりました。

高森先生からは、「インプラント治療のトラブル症例から読み取れる治療の現状」と題し、①インプラント治療が普及した背景と問題点、②問題症例の検討、③インプラント手術に関連したトラブルといった内容を中心に、日本歯科大学附属病院口腔インプラント診療科に受診した問題症例や日本顎顔面インプラント学会の報告を交えて、さまざまなリスクと注意点についてご講演頂きました。

インプラント治療のトラブルについては、①上顎洞炎やインプラント体の迷入といった上顎洞関連と②下歯槽管損傷、オトガイ神経損傷、舌神経障害といった神経損傷で、全体の約7割を占めることが報告されました。特に近年では、①CTやシュミレーションガイドの普及により全体としてのトラブルが減少傾向にあること、②一方で、サイナスリフトやGBR等の応用により適応症が拡大し、高度なインプラント技術や

技量が求められる治療が増加しているために、トラブル内容もより複雑なものが増加傾向にあることが報告されました。そして、トラブルを避けるため最も重要なことは、①術前の適切な診査診断が重要であること、②的確な治療技術を習得すること、そして③万が一、トラブルが生じてしまった際には、正直に患者さんに説明し、謝罪と理解を得ることであるとご講演されました。

数年前までは、インプラントにまつわる様々な事故や問題がマスコミによって報道され、インプラント治療のネガティブな側面がクローズアップされ、インプラント治療全体に暗い影を落としていましたが、ここ最近では、再びインプラント治療の有効性と信頼性が高まってきているそうです。インプラントそのものは、臨床応用以来、目覚ましい進歩を遂げ、確たる実績を残してきた非常に有効性の高い歯科医療であることに疑いの余地はありません。しかしながら、我々が真摯にインプラント治療に向き合わなければ、「良薬も毒となる」となるということを肝に銘じなければなりません。気を引き締めて明日からの臨床に取り組むことを再確認することが出来た、大変有意義な研修会であったことをここにご報告させていただきます。